

## Aix-en-Provence コーパスを用いた

### フランス語話し言葉におけるリエゾン現象の統語・音韻分析

近藤 野里（東京外国語大学大学院）

本発表では、Aix-en-Provence コーパス（音声コーパス）を用い、フランス語話し言葉におけるリエゾンの統語・音韻的分析について述べる。背景として Ågren (1973)、Encrevé (1988)によって特に文体の高いフランス語発話におけるリエゾン研究は既に行われてきたが、文体がさほど高くない発話体でのリエゾンについては直感で語られることが多かった。本発表で用いるエクサンプロヴァンスで録音された発話は日常会話が主であるが、このような発話体において実際にはどのようなコンテキストでリエゾンが実現され、どのような要因が影響しているのかについて考察を行う。内容として、(1) Fouché (1959)、Delattre (1966)が行ったリエゾンの規範的分類の紹介、(2) 先行研究で述べられてきたリエゾン実現における言語内的・外的実現要因の整理、(3) Aix-en-Provence コーパスを用いての統語・音韻分析からの要因考察を行う。